

中国語人称代名詞”人家”と日本語「人」の他称用法 について

任, 暁雪

<https://doi.org/10.15017/1544147>

出版情報：地球社会統合科学研究. 2, pp.29-34, 2015-02-16. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

中国語人称代名詞“人家”と日本語「人」の他称用法について

ニン 任 キョウ セツ 暁 雪

1. はじめに

筆者は修士論文を書くことをきっかけに、¹中国語人称代名詞“人家 (renjia)”²に対する日本語の表現は「人(ヒト)」が一番多いことに気付いた。そのため、両者の対比研究を始めた。

今まで、中国語の“人家”に関しては、多くの研究が積み重ねられ、特に中国の言語学者の関心を集めている。一方、日本語の「人(ヒト)」に関しては、その自称用法の研究は数本あるが、他称用法のほうは大変少ない。また、“人家”と「人(ヒト)」との自称用法の対比に関する対照研究はあるが、他称用法に関する研究はほとんどない。特に日本語を勉強する中国語母語話者の学習者に対して、日本語の「人」への認知はまだその基本的な意味「人間、人類」という段階であり、人称詞として使用することは非常に少ない。また、中国語を勉強する日本語母語話者に対して、中国語人称代名詞“人家”をマスターすることは難しいとよく言われている。

そのため、本稿では“人家”と日本語「人」の対比、特に他称用法という面で、その共通点と相違点を対照しながら分析する。これによって、“人家”と「人」の用法がより理解しやすくなると思う。

2. 先行研究

2.1 “人家”に関する先行研究

呂叔湘 (1980)

“人家”に関する研究をはじめたのは、呂叔湘 (1980) が書いた『現代漢語八百詞』である。呂 (1980) は“人家”は三つの意味を持っていると述べている。

- (1) 話し手と聞き手以外の人で、‘自分’と対をなす人を指す。ほぼ‘別人’の意味と同じである；
- (2) 話し手と聞き手以外の人で、すでに前に現れた人を指す。ほぼ‘他’あるいは‘他们’に相当する；
- (3) 話し手自身を指す。‘我’に相当する。やや不満の気持ちが含まれる。

話し言葉では、‘人家’を‘人’と省略できるが、文末

に‘人家’があるときは使用できないと呂叔湘氏が指摘した。

¹ 本稿では、便利上、中国語人称代名詞“人家 (renjia)”を“人家”と略し、日本語の「人(ヒト)」を「人」と略すことにする。

² 本稿では、中国語と日本語の単語をはっきり区分するために、中国語の単語を全部“”で表示する。日本語の単語は全部「」で表示する。

楊凱榮 (1991)

また、楊凱榮 (1991) は、“人家”は第三人称の用法として先行文脈が必要だと指摘した。楊 (1991) は先行文脈から第三人称を指していると判断できる場合の“人家”を問題にした。また、面白いことに、“人家”の他称用法として、よく“人家+人名”という形で用いられ、指示対象寄りの立場から聞き手に対する発話者の不満や反駁の語気を表すということを指摘した。例えば、
例 (妻が夫に対し) 人家老王已经是教授了, 可你,
……

(あの王さんはもう教授になったというのに、あなたは……)

杜道流 (2002)

「人家」は一人称、二人称、三人称を指す場合には、なんらかの修飾を帯びているので、単なる一人称、二人称、三人称に変わることはできない。今までの研究は、「人家」が修飾の機能があると提示したが、全面的ではなく言い方が一致していないところもあると杜 (2002) は指摘した。杜 (2002) は、一人称、二人称、三人称に分けて、各々の場合に、どんな修飾機能を果たしているか説明した。ここで三人称の場合を取り上げる。

- ① 敬服或は羨ましい気持ちを表す；
- ② 指す対象の考え方や表現方法は一般ではない；
- ③ 対比を表す；
- ④ 不満の気持ちを表す；
- ⑤ 批判の気持ちを表す；
- ⑥ 皮肉やかからかうことを表す。

2. 2 「人」に関する先行研究

一方で、「人」に関する自称用法の研究はあるが、他称用法の研究は大変少なく、ここでは一つを取り上げる。また、日本語の辞書に書いてある「人」に関する説明を付録の表1に記す。

大西(2010)は「[ヒト]が自称詞として働くか、対称詞あるいは他称詞として働くかは、言語的、状況的コンテキストに依るところ大であるが、逆にそのコンテキストがあいまいであれば、「ヒト」が誰を指すか特定し難いことにもなる。」と指摘した。この点からみれば、中国語の“人家”の用法と同じである。さらに、「ヒト」の他称用法は聞き手の言動を非難する表現と理解されることになると主張した。

3. “人家”と「人」の他称用法の対比

3. 1 “人家”の他称用法

“人家”の他称用法には以下のように三つがある。

(1) 話し手と聞き手以外の人を指して、意味は「別人」、「他人」とほぼ同じである。³

例1 她脾气很好, 人家说她什么都不生气。⁴
(あの人は気がよくて、何を言われても怒らない。)

例2 人家常说万事开头难。
(最初的一步とよく言われている。)

(2) 特定の第三者を指す。

例3 你应该到他家里去, 看看人家到底有哪些困难。⁵
君は彼の家に足を運んで、あの人たちにどんな困難があるか見ておかねばならない。

例4 我倒是好心好意, 可是人家不领情。⁶
私はむしろ全くの親切心であったのに、あの人ときたらありがたいとは思わない。

(3) “人家+人名/地名…”という形をして、(2)と同じで具体的な第三者を指して言う。(2)と異なったのは、(3)では、“人家”がなくても文は成立するが、(2)の“人家”がなければ文が成立できない。つまり、(2)は“人家”の指示機能を果たしているのに対して、(3)は“人家”の区別機能と代替機能を果たしている。

例5 看看人家凌凯, 来矿才四年的学生, 二十多岁, 要是不死, 过不了三个月, 就是宣传科的副科长了。
『盖棺』

あの凌凱をみてごらん。学生あがりでこの炭鉱にやってきてまだ四年にしかならないが、もしこんなことにならなければはたちを少し過ぎた若さで、三か月後には宣伝課の課長補佐になるはずだった。

例6 人家阿比西尼亚一个五百五十万人口的小国家都敢抵抗意大利那样的强国, 还打了胜仗。『青春之歌』

エチオピア、あの人口たった五百五十万の小国でさえ、イタリアのような強国に抵抗し、そのうえ勝利したのよ。

3. 2 「ヒト」の他称用法

「ヒト」の他称用法は以下の二つがある。

(1) “人家”の(1)の用法と大体同じである。意味は「他人」と考えてよからう。

例7 ひとに金の心配押しつけておいて、のんきな奴等だな。『あしたくる人』
叫别人为钱担心, 这些逍遥自在的家伙!

例8 このご病人は、ひとの事など心配なさらず、もつとわがままに、召し上りたいものは何でも、たくさん召し上るようにしなければいけませんね。『斜陽』
你这位病人呀, 可不要为别人操心啦, 想吃什么就尽量多吃点吧。

(2) 特定の第三者を指していう。

³ 先中国語では、「人家」や「他人」などのように広く話し手と聞き手以外の人を指す代名詞は“旁称代词”とよぶ。日本語において、他称詞とは話し手と聞き手以外の人を指す代名詞という。そのため、本稿では、中国語の“旁称代词”も他称詞に含められることにしてよからう。

⁴ 注釈が付いていない例は筆者の作例である。

⁵ 『中国語辞典』白水社から引用された例文である。

⁶ 『中国語辞典』白水社から引用された例文である。

例9 伸子は純子の腕をつかんで、「私たちはどこかへ引っ込んでいましょう」
「え? どうして?」
「尾島さんが私たちを見れば面白くないはずよ」
「こっちは面白いわ」
「だめ。必要以上に人を傷つけちゃいけないわよ」(女) 『雪国』

例10 「人がせっかく編んでくれたセーターをそんなところに置いたりして…ばちが当たるよ」⁷

3. 3 “人家”と「ヒト」の他称用法に関する対比

“人家”には他称用法だけでなく、自称用法、対称用法もある。他称用法を取り上げるのは、両方ともコンテキストに依る依頼性が高いからである。具体的な例を以下で分析する。

例11 人家不想去。
彼/あたしは行きたくない。

例11では、コンテキストがないため、“人家”の他称

用法か自称用法かは判断できない。“人家”と同じく、「人」も状況的コンテクストに依って判断しなくては行けない。以下の例12では、人を他称用法か自称用法かを判断することは会話の状況がわからないと、判断し難い。
例12 人をばかにするな。

3. 3. 1 不特定の第三者の場合

この部分のデータは、北京大学日本学研究中心(2003)『日中対訳コーパス』を用いる。日本語小説と中国語小説はそれぞれ15冊を抽出し、考察を行う。

その結果、指示詞としての「人」の使用頻度が一番高いのは、「他人」の意味であることがわかった。ヒトは日本語では古くから他人やよそのこと、外のことを指すことが多いのである。「人」が持つこの「他人」という意味合いは格言や諺の「人は人、自分は自分」などでは明瞭である。⁸

それに対して、“人家”のほうは、指示詞として具体的な第三者を使用する頻度が一番高いということがわかった。この用法は3.3.2の部分で考察する。その次は、「他人」という意味である。中国語の旁称代名詞には、“人家”のほか、“別人”、“人”、“旁人”、“他人”という代名詞があって、特に「ほかの人」という意味を表すとき、“別人”を使用する頻度が“旁称代詞”の中で一番高い。そのため、“人家”は旁称代名詞より第三人称としての使用頻度が高い。

以上をまとめると、「他人」の意味の場合、日本語の「人」の使用頻度は中国語の“人家”より高いということがわかるようになった。

⁷ 大西 智之(2000)「「ヒト」の指示用法に関する一考察」から引用された例文である。

⁸ 三輪 正(2010)『日本語人称詞の不思議—モノ・コト・ヒト・キミ・カミー—』法律文化社 p 125

3. 3. 2 特定の第三者の場合

特定の指示対象つまり第三者を指す場合、言語的あるいは状況的コンテクストによって提示されるかどうかによって、提示されるほうを「照応」として、提示されないほうを「非照応」とする。⁹

1、照応

(1) 前の文に指示対象を指す用法は、“人家”も「人」もそういう用法があるが、「人」の用例はデータより一例しかない。

例13 病院で、入院している張さんは見舞いに来た王さんと李さんのことを話している。

張さん:我真是老了, 瞧瞧老李, 每天精神抖擞的。

(年とったな。李さんを見て、毎日元気であるね。) 王さん:人家每天一大早就去跑步。坚持几十年了。身体能不好么。

(李さんは毎日朝早くジョギングして、もう何十年も続けているおかげで、体が丈夫だよ)

例14 私はその上無口になりました。それを二三の友達が誤解して、冥想に耽ってでもいるかのように、他の友達に伝えました。私はこの誤解を解こうとはしませんでした。都合の好い仮面を人が貸してくれたのを、却って仕合せとして喜びました。再加我变得沉默寡言了。有两三个朋友误解了这一点, 传给另外的朋友, 说我不要是耽于冥想吧。我对这个误解, 不打算加以解释, 反而把人家借给我这个合适的假面具, 当做一种幸运, 很是高兴。

(2) 指示対象は後の文に出る。この用法は“人家”も「人」もあるが、「人」の用例はデータより一例しかない。

例15 人家早就明白了, 韩丽婷、钱康、贾玲……¹⁰
(彼らはもうわかったよ。韩丽婷、钱康、贾玲……)

例16 いつも飯櫃は出し放し、三度が三度手盛りでやるに引きかえ、こうして人に給仕して貰うというのは、嬉しくもあり、窮屈でもあり、無造作に膳を引寄せて、丑松はお志保につけて貰って食べた。

平素、丑松一天三顿饭，饭盘一送来就放在那里，由他自己盛饭自己吃。今天不同了，有人在旁边伺候，这使他既高兴，又感到拘束。丑松冒冒失失把饭盘拉过来，请志保姑娘替他盛。

2、非照応

非照応とは、前も後も指示対象がなくて、人が持っている背景知識によって推測できる。ここではその指示対象に重きを置かないので、指示対象の詳しい情報を説明しなくてよい。

例17 他也是被抓进去的, 身不由己, 可能是人家觉得他像谁。¹¹

彼も捕まって、思う通りになれなくて、誰かに似ていると思われた。

例18 「僕はひとと約束があってね、あまりじかんがないんだ。話って、なんだね。」

『青春の蹉跎』

⁹ 张伯江、方梅(1996)《汉语功能语法研究》で“人家”の代替機能の場合に使用する基準で分類する。

¹⁰ 张伯江、方梅(1996)《汉语功能语法研究》より引用された例文である。

以上をまとめると、指示機能としては、“人家”と「人」

の用法はほぼ同じであって、使用頻度だけが異なっている。「人」は特定の第三者を指す用法を使用する頻度が“人家”より非常に低い。しかし、データからみると、特定の第三者を表すには、やはり「指示詞+人」という形、つまり「こ/そ/あの+人」を使用するほうがより一般的である。

また、修飾機能としては、両者が大変異なっている。以下の例を見てみよう。

例19 人をからかうことをするな。

例20 余永泽摆着脑袋苦笑道，“人家哪肯和我这落后的人在一片？当然见了我就走……”

『青春之歌』

余永泽は頭をふって、苦笑した。「ああいうお偉がたが、ぼくのような落伍分子と一緒にいたがるかね？とうぜん、ぼくの顔を見たとなんに、出ていっちゃったよ。

例21 甬问。问也白搭。人家肯定看不起咱们。咱也不高攀人家。一见面准崩。

『丹凤眼』

聞く必要なんかないさ。聞いたって無駄だよ。相手の娘は俺たち炭坑夫を馬鹿にしてるにきままっているし、俺たちだってお高いのはごめんだからね。会ったってうまくいくはずがないじゃないか。

以上の用例を見ると、“人家”を用いて羨ましさ、不満、批判、皮肉やからかうことを表すことができるのに対して、「人」は聞き手の言動を非難することだけを表現できる。つまり、“人家”が表す感情は「人」より豊富であるといえる。

3. 3. 3 “人家”の特殊用法

「人」と比べると、“人家”はまだ一つの特殊の用法がある。それは“人家+人名/地名…”という形で第三者を指示して、“人家”はなくても、文が成立できる。この場合の“人家”は指示機能より修飾機能が強いと思う。その後は人名だけでなく、いろいろな名詞を付くことができる。前に出した例5と例6をご参考されたい。例えば、例6では、以下のように“人家”がなくなると、敬服の気持ちはなくなる。

例6 阿比西尼亚一个五百五十万人口的小国家都敢抵抗意大利那样的强国，还打了胜仗。『青春之歌』

“人家”と「人」の共通点と相違点は以下のようにまとめることができる。

- 1、まず、他称か自称かを判断するには、“人家”も「人」もコンテキストに依る依頼性が高いという点においては、同じである。
- 2、不特定の第三者を指す場合、“人家”より「人」の

使用頻度が高い；

- 3、特定の第三者を指す場合、“人家”と比べると、「人」の使用頻度が非常に低い。「指示詞+人」はより一般的である；それに、“人家”はいろいろな感情を表すことができるのに対して、「人」は非難だけを表す；また、“人家”の後ろに人名や地名が付くという指示対象を指す特殊な用法がある。「人」はその用法がない。

¹¹ 张伯江、方梅(1996)《汉语功能语法研究》より引用された例文である。

参考文献：

- 1、『国語辞典』第二版 森岡健二・徳川宗賢・川端善明・中村明・星野晃一 集英社 2000年9月18日
- 2、『現代新国語辞典』改訂第三版デスク版 金田一春彦学習 2002年10月1日
- 3、『日本語大辞典』第二版 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明 講談社カラー版 1995年7月3日
- 4、『大辞林』第三版 松村明 三省堂 2006年10月27日
- 5、大西 智之(2000)「「ヒト」の指示用法に関する一考察」『日本と中国ことばの梯、佐治圭一教授古稀記念論文集』くろしお出版社
- 6、鈴木 孝夫(1976)「自称詞としての「人」」『慶応義塾大学言語研究所紀要』
- 7、呂 叔湘(1980)《现代汉语八百词》商务印书馆
- 8、朱 德熙(1982)《语法讲义》商务印书馆
- 9、呂 叔湘(1985)《近代汉语指示词》学林出版社
- 10、太田辰夫(1987)《中国语历史文法》蒋绍愚、徐昌华译、北京大学出版社
- 11、杨 凯荣(1991)「現代中国語における人称代名詞「人家」について——三人称代名詞「他」との比較を通じて——」『対照研究』つくば言語文化フォーラム編
- 12、张伯江、方梅(1996)《汉语功能语法研究》江西教育出版社 pp162-174
- 13、松村恵子・潘寿君(2000)「現代中国語における‘人家’——特定の個人を指示する‘人家’について——」『名城論業』1(1)
- 14、三輪 正(2010)『日本語人称詞の不思議—モノ・コト・ヒト・キミ・カミ—』法律文化社

付録

表1 人称詞「人」の意味

辞書名	「人(ひと)」の意味
『国語辞典』第二版	1、人類、人間;2、人格をもつ一個人;3、世間の人、他人;4、大人、成人;5、適切な人物、人材;6、人柄、性格;7、ある特定な人を指している;8、権利能力を有する者、自然人と法人とをいう。
『現代新国語辞典』改訂第三版デスク版	1、哺乳類サル目ヒト科に属する動物、人間;2、大人、成人;3、世間の人;4、自分以外の人間、他人;5、意中の人、恋人、妻;6、優れた人;7、人柄、性格;8、自然人と法人の総称
『日本語大辞典』第二版カラー版	1、人間、人類;2、世間の人、世人;3、他人;4、大人、成人;5、人物、性質;6、人々、みんな;7、優れた人物;8、自分;9、特定の人を指す語(①ある人②必要な人手③恋人)
『大辞林』第三版	1、人間、人類;2、ある特定の一人の人間、個人;3、一定の条件に合った個人を漠然と指している;4、立派な人物;5、性質から見た人間、人柄;6、自分以外の者、他人;7、当事者以外の世間一般の人々;8、自分と相手以外の第三者;9、話し手が自分を第三者のように見立てていう;10、動作・状態・資格などを表す語の後に付いて、それらの主体であることを表す。者、方;11、特定の関係にある人間、恋人など;12、権利義務の主体たる法律上の地位;13、成人、大人;14、漠然と、だれか

Contrastive analysis of the third person usage of Chinese renjia and Japanese hito

Xiaoxue Ren

The Chinese word renjia, if pronounced rénjiā, is a noun which means “house,” “household,” or “family a woman marries into.” In contrast, if it is pronounced rénjia it is used as a personal pronoun. In the latter case, renjia can be used in the first, second and third person. In Japanese, the word hito corresponds to the Chinese personal pronoun renjia in terms of usage. Chinese students of the Japanese language tend to treat hito only as a noun meaning “human,” being unaware of its pronominal function. But in fact hito can be used in a similar way to renjia. As a result of the analysis we can conclude that: 1) renjia and hito share similarities in usage, but 2) renjia has a special usage in which it is followed by a proper noun, while hito does not, and 3) they have a different frequency of use.